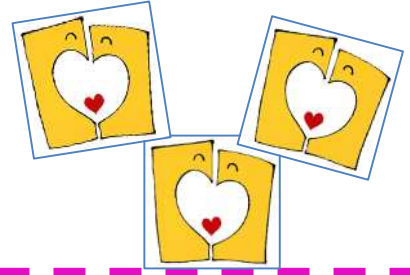


道徳通信



中島中学校 3学年道徳通信 No.2 R7.5.27

バスと赤ちゃん【主題名:思いやり】

【あらすじ】

満員のバスの車内で突然赤ちゃんが泣き出した。母親は他の乗客に迷惑をかけると思い、途中下車しようとする。それに気付いたバスの運転手が母親に声をかけ、乗客に状況をアナウンスし理解を呼びかける。車内では乗客全員からの拍手が返ってきた。



【ねらい】

バスの乗客や運転手の思いやりの行為から問題を把握し、社会連帯につながるような「親切・思いやり」の行為はどうあるべきかについて話し合いを深める。それによって、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることの大切さに気づくようにする。



人を思いやるときに大切なことは何だろう。

母親の立場で

運転手の立場で

乗客の立場で



生徒の振り返りより 「思いやりについて考えたこと」

思いやりの行動はよいことだと思っていたが、場合によっては無理矢理させることになり、それは思いやりではないことに気づいた。

自分が思いやりと思って行動したとき、された人が嫌な思いをしていないかも考えてみようと思った。

相手が本当はどう思っているのか考えることも大切。

いつも心で思っても、行動に移せないことが多いので、自分はまだまだ弱いなと思った。

思いやりは自分から考えて行動する場合と、仕事や役割から行動する場合があることを知った。



相手にあった思いやりをしていこうと思った。また、何をすればよいかわからないときは何をしてほしいか聞いて見ようと思った。

ご家庭でも、「親切・思いやり」について話し合ってみてください。